

# はにい

## 回路

平成24年12月17日

中学2年生の理科。

——「前回、直列回路と並列回路の電流の大きさを調べて、その関係を式に表しましたね。」そこまで先生が話すと、生徒から声が出ました。

「だから今日は、同じように電圧の大きさの関係を調べて、式に表すんだよ・・・」

対話しながら、生徒の方から課題が確認されていきます。

——「それでは、配付したワークシートを参考にして、それぞれの電圧の関係をまずは自分で予想してみましょう。それをもとに、グループで意見交換をしてください。」

まず、自分の考えを書いてから、グループで対話をしていきます。



校長先生に伺いました。

「小学校ではペア学習、グループ学習などが効果的に取り入れられていますが、中学校では本校を含めて、まだまだ工夫が必要だと思います。」

『中学校には教科の壁があるからな・・・』と感じている先生が多いと思いますが、まさに教科の壁を超えた取組がよいのです。

学校全体で取り組むためには、自分の教科以外の取組を知っていなければなりません。そこから得たものを自分の教科に取り入れ、発展させることができれば最高ですね。」

研究主任にも話を伺いました。

校内研究を始めて、大きく変わったことは何ですか。

「一番は職員の意識です。以前は講義型の授業がほとんどであったのが、今では6～7割が子どもをいかした授業になっています。異動してきた職員には、最初、抵抗感があったと思いますが、徐々に授業スタイルが変わってきています。」

研究協議が活性化しているということですが、何か工夫されていることはありますか。



「研究協議には生徒のインタビューを取り入れています。『今日学んだこと、得たことは何ですか』『話し合い活動はどうでしたか』などの質問に、生徒は率直に答えます。教師がドキドキしながら生徒の意見を聞き、その思いを受けとめています。また、生徒にインタビューをすることで生徒を学校研究に巻き込み、研究に携わる一員であるという意識をもたせています。全校で取り組んでいるので、インタビューにもスムーズに応じます。」

生徒にもインタビューしました。

授業の中に話し合い活動が取り入れられていますか、どうですか。

「自分の考えを発表できることがいいと思います。また、自分と違う意見を聞き、新たな発見をすることもあります。」

「みんなで考えることがいいんじゃないの。」

「自分の説明で相手がわかってくれると、自信になります。」

さて、授業は、回路の組み立てに不安のある生徒が自分から再度組み立て始めています。

「電圧計はあとから接続するとわかりやすいよ。」

「どうして？」

「だって、並列つなぎじゃん。」

仲間との対話で、疑問が解決したようです。

実験のあと、グループのデータを順に黒板に書き出しました。

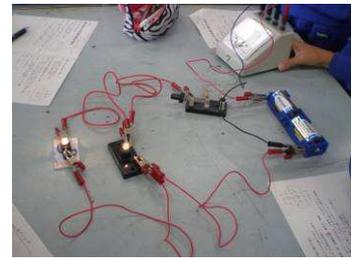
「うちのグループ、何かおかしい結果じゃない？」

「どこ？」

「だって・・・」

何かに気付いたこのグループでは、再実験を行うことにしました。

対話で、学びがまた一歩前進です。



---

かながわ元気な学校づくり通信 『はにい』とは、  
学校が元気になるように・・・  
先生の仕事を受ける  
学校に携わる大人たちがしていることを受ける  
そして、もちろん子どもたちの育ちを受取る  
そんな、コミュニケーションツールです。 みんなで語り合しましょう。  
専用メールアドレス： inochi4027@pref.kanagawa.jp